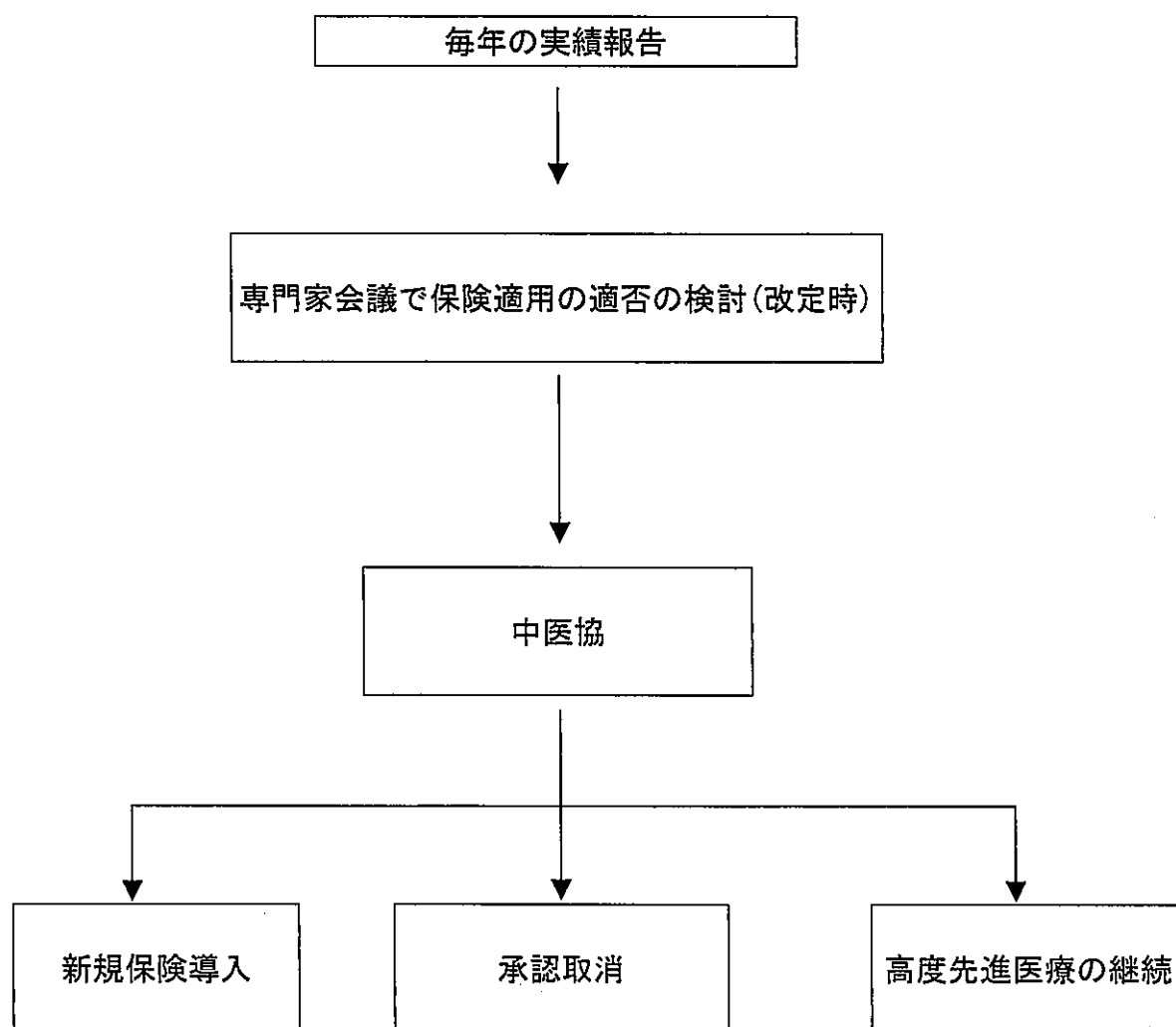


高度先進医療技術名	医療機関名
<p>[歯科]</p> <p>歯周組織再生誘導法</p> <p>接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定</p> <p>光学印象採得による陶材歯冠修復法</p> <p>X線透視下非観血的唾石摘出術</p> <p>レーザー応用によるう蝕除去・スケーリングの無痛療法</p> <p>顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術</p> <p>顎関節脱臼内視鏡下手術</p> <p>耳鼻咽喉領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法</p>	<p>鹿児島大学歯学部附属病院 日本歯科大学歯学部附属病院 東京歯科大学千葉病院 東京医科歯科大学歯学部附属病院 鶴見大学歯学部附属病院 新潟大学医歯学総合病院 昭和大学歯科病院 日本大学歯科病院 大阪大学歯学部附属病院 弘前大学医学部附属病院 広島大学病院 日本大学松戸歯学部付属歯科病院 北海道大学病院 岡山大学医学部・歯学部附属病院</p> <p>岡山大学医学部・歯学部附属病院 広島大学病院 長崎大学医学部・歯学部附属病院 鹿児島大学病院</p> <p>岡山大学医学部・歯学部附属病院 北海道大学病院 広島大学病院 新潟大学医歯学総合病院</p> <p>東京医科歯科大学歯学部附属病院</p> <p>東京医科歯科大学歯学部附属病院 三重大学医学部附属病院</p> <p>山梨大学医学部附属病院 千葉大学医学部附属病院 岩手医科大学歯学部附属病院</p> <p>金沢医科大学病院</p> <p>日本大学松戸歯学部付属歯科病院</p>

(医療機関名は承認年月日順)

高度先進医療技術の保険適用

○ 保険適用までの流れ



高度先進医療専門家会議においては、技術の普及性、効率性、有効性、安全性、技術的成熟度等を勘案し、改定時に保険適用の可否を決定する。

中医協においては、高度先進医療専門家会議の報告を受けて、審議し保険導入する技術、承認取り消しをする技術を決定する。

高度先進医療の実績報告について

1 目的

高度先進医療の実施状況を把握し、その効果判定を行い、新規保険導入、既存診療報酬点数の適用の可否及び高度先進医療の存続の可否に係る検討のための基礎資料とすることを目的とするものである。

2 対象施設

高度先進医療を実施している特定承認保険医療機関。

3 対象期間

6月～翌年5月末までの1年間に実施した高度先進医療の状況について、9月末までくらいに厚生労働省保険局医療課に報告することとする。なお、当該実績がない場合はその旨を明記すること。

4 報告内容

実施件数、診断名、入院期間、転帰、治療効果および評価、費用、副作用・合併症等について報告すること。(別紙様式による。)

固形がんの治療については、日本癌治療学会「固形がん化学療法直接効果判定基準」により報告することとしている。

高度先進医療実績報告（総括表）（固形癌の治療以外用）

特定承認保険医療機関名

特定承認保険医療機関の承認年月日 年 月 日

高度先進医療 担当医師名	高度先進医療 担当医師名	高度先進医療 担当医師名
1. 著効（ ○根拠） 2. 有効（ ○根拠） 3. 不変（ ○根拠） 4. 無効（ ○根拠） 5. 不明（ ○根拠）	1. 著効（ ○根拠） 2. 有効（ ○根拠） 3. 不変（ ○根拠） 4. 無効（ ○根拠） 5. 不明（ ○根拠）	1. 著効（ ○根拠） 2. 有効（ ○根拠） 3. 不変（ ○根拠） 4. 無効（ ○根拠） 5. 不明（ ○根拠）

高度先進医療実績報告 (総括表) (固形癌の治療用)

特定承認保険医療機関名

特定承認保険医療機関の承認年月日 年 月 日

高度先進医療 担当医師名	高度先進医療 担当医師名	高度先進医療 担当医師名
1. 著効 (例) ○根 拠	1. 著効 (例) ○根 拠	1. 著効 (例) ○根 拠
2. 有効 (例) ○根 拠	2. 有効 (例) ○根 拠	2. 有効 (例) ○根 拠
3. 不変 (例) ○根 拠	3. 不変 (例) ○根 拠	3. 不変 (例) ○根 拠
4. 進行 (例) ○根 拠	4. 進行 (例) ○根 拠	4. 進行 (例) ○根 拠

高度先進医療実績報告（平成〇〇年〇月〇日～平成〇〇年〇月〇日）

コード番号 -

高度先進医療名 高度先進医療の費用（申請時） 円

承認年月日 年 月 日 総件数 件

番号	診断名	年齢	性別	入院期間	実施回数	転帰	特定療養費①	高度先進医療の総額②	総合計 (①+②)円	評価	
										固形癌の治療以外	固形癌の治療
1		歳	男・女	日	回		円	円		1・2・3・4・5	CR・PR・NC・PD
2			男・女							1・2・3・4・5	CR・PR・NC・PD
3			男・女							1・2・3・4・5	CR・PR・NC・PD
4			男・女							1・2・3・4・5	CR・PR・NC・PD
5			男・女							1・2・3・4・5	CR・PR・NC・PD
6			男・女							1・2・3・4・5	CR・PR・NC・PD
7			男・女							1・2・3・4・5	CR・PR・NC・PD
8			男・女							1・2・3・4・5	CR・PR・NC・PD
9			男・女							1・2・3・4・5	CR・PR・NC・PD
10			男・女							1・2・3・4・5	CR・PR・NC・PD

特定療養費計 円 患者1人当たりの平均特定療養費 円 患者1人当たりの平均入院期間 日

高度先進医療の総額計 円 患者1人当たりの平均高度先進医療の総額 円 患者1人当たりの平均実施回数 回

上記に係る総合計 円 患者1人当たり平均総合計 円

高度先進医療に伴う副作用・合併症について

高度先進医療の名称	
特定承認保険医療機関名	
患者略名 (報告書の順番)	()
性別	男・女
年齢	歳
診断名	
主な既往症	
重篤な副作用・合併症	
年月日	副作用等の発現状況・症状及び処置等の経過

主たる疾患の転帰	1. 治癒 2. 死亡 3. 中止 4. 治癒継続
副作用等の転帰	1. 回復 2. 軽快 3. 未回復 4. 後遺症あり (症状:) 5. 死亡 (死因:)
頻度 (注1)	① 10%未満 ② 10~25% ③ 25~50% ④ 50%以上
因果関係 (注2)	1. 直接的 2. 間接的 3. 無関係 4. 不明
主治医等の意見	
今後の対策	
参考文献 (注3)	

(注1) 貴医療機関における本医療技術を使用した患者につき、本症例と同様の副作用等の出現頻度について、1つに○をつけて下さい。

(注2) 高度先進医療と副作用等の因果関係について、1つだけ○をつけて下さい。

(注3) 当該副作用等を理解するために参考となる文献があれば記入して下さい。

※ 本報告に関して、患者略名、報告者名、施設名等は外部へ漏洩しないよう万全の配慮を致します。

(別添1) 固形がん化学療法直接効果判定基準

日本癌治療学会「癌化学療法効果判定委員会」

井口 潔	九州大学医学部	寺沢敏夫	大阪成人病センター
内野治人	京都大学医学部	戸部隆吉	京都大学医学部
太田和雄	愛知県がんセンター病院	服部正次	大阪成人病センター
小山善之	国立病院医療センター		

4. 奏効度の表現

4・1 著効……Complete Response (CR)

測定可能病変、評価可能病変および腫瘍による二次的病変が、すべて消失し、新病変の出現がない状態が4週間以上持続したもの。

4・2 有効……Partial Response (PR)

4・2・1 二方向測定可能病変の縮小率が50%以上であるとともに、評価可能病変および腫瘍による二次的病変が憎悪せず、かつ新病変の出現しない状態が少なくとも4週間以上持続した場合。

4・2・2 一方向測定可能病変において、それぞれの算定式で求めた縮小率が30%以上であり、評価可能病変および腫瘍による二次的病変が憎悪せず、かつ新病変の出現しない状態が少なくとも4週間以上持続した場合。

4・3 不変……No Change (NC)

二方向測定可能病変の縮小率が50%未満、一方向測定可能病変においては縮小率が30%未満であるか、またはそれぞれの25%以内の増大にとどまり、腫瘍による二次的病変が憎悪せず、かつ新しい病変が出現しない状態が少なくとも4週間以上持続した場合。

4・4 進行……Progressive Disease (PD)

測定可能病変の積または径の和が25%以上の増大、または他病変の憎悪、新病変の出現がある場合。

高度先進医療承認状況における費用等について

平成15年度（平成14年6月1日～平成15年5月31日）実態調査より

① 高度先進医療技術数（平成15年5月31日現在）	70種類
② 医療機関数（平成15年5月31日現在）	98医療機関
③ 全患者数	2,292人
④ 総金額	約22億9千万円
⑤ 特定療養費の総額（保険診療分）	約15億6千万円
⑥ 高度先進医療の総額（患者の自己負担分）	約7億3千万円
⑦ 1入院全医療費のうち高度先進医療分の割合（⑥／④）	31.9%

各技術の実施設数と実施件数(H14.6～H15.5)

整理番号	技術名	実施施設数	年間実施件数	年間実施回数
6	直流電流による骨電気治療法	1	1	1
16	顔面骨、頭蓋骨の観血的移動術	1	1	1
24	培養細胞による先天性代謝異常診断	2	2	2
53	経皮的埋め込み電極を用いた機能的電気刺激療法	1	6	6
59	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	1	1	1
61	神経磁気診断装置による中枢神経機能異常の診断	7	381	382
68	実物大臓器立体モデルによる手術計画	10	46	46
70	レーザー血管形成術	1	8	8
71	筋内圧測定による筋コンパートメント症候群の診断	1	2	2
73	固型腫瘍のDNA診断	5	208	208
74	進行性筋ジストロフィーのDNA診断	4	100	102
86	経皮的レーザー椎間板切除術	3	14	14
88	活性化自己リンパ球移入療法	5	182	575
89	フローサイトメリーのTwo-color分析法によるPNHの鑑別診断法	2	7	7
90	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	1	5	5
93	スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	2	22	22
98	羊水を用いた胎児血小板型の出生前診断	1	1	1
101	焦点式高エネルギー超音波療法	2	6	6
105	潰瘍性大腸炎に対する遠心分離法による白血球除去治療	3	10	39
107	Open MRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するYag Laserによる経皮的椎間板減圧術	1	147	147
109	脳死肝臓移植手術	1	2	2
110	肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	3	7	7
112	フローサイトメリーによる先天性免疫不全症の診断	1	1	1
118	筋緊張性ジストロフィー症のDNA診断	1	1	1
120	内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	4	58	58
122	家族性アミロイドーシスのDNA診断	1	6	6
123	三次元形状解析による顔面の形態的診断	1	2	2
125	抗癌剤感受性試験	6	106	129
126	子宮頸部前癌病変のHPV-DNA診断	1	58	58
127	不整脈疾患における遺伝子診断	2	9	9
128	体幹部病巣に対する直線加速器による定位放射線治療	3	35	50
130	腹腔鏡下肝切除術	2	4	4
131	画像支援ナビゲーション手術	2	19	19
133	肝癌に対する高周波焼灼療法	2	65	77
134	エキシマレーザーによる治療の角膜切除術	1	1	1
135	成長障害のDNA診断	1	1	1
137	心臓移植手術	2	2	2
132	悪性腫瘍に対する粒子線治療	1	74	74
138	腹腔鏡下前立腺摘除術	7	150	150
139	生体部分肺移植術	1	2	2
141	CT透視ガイド下生検	1	1	1
144	悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	1	2	2
19	インプラント義歯	20	309	454
22	顎顔面補綴	6	16	47
26	顎関節症の補綴学的治療	1	1	1
76	歯周組織再生誘導法	10	111	482
81	接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	3	48	85
83	光学印象採得による陶材歯冠修復法	2	9	10
87	X線透視下非観血的唾石摘出術	1	10	10
103	レーザー応用によるう蝕除去・スクレーピングの無痛療法	1	1	1
108	顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	1	2	2

各技術の効果判定(H14.6~H15.5)

整理番号	技術名	年間 実施件数	評価(件数)					有効性 (%)	無効性 (%)
			1(CR)	2(PR)	3(NC)	4(PD)	5		
6	直流電流による骨電気治療法	1		1				100.0	
16	顔面骨、頭蓋骨の親血的移動術	1	1					100.0	
24	培養細胞による先天性代謝異常診断	2	2					100.0	
53	経皮的埋め込み電極を用いた機能的電気刺激療法	6	6					100.0	
59	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	1		1				100.0	
61	神経磁気診断装置による中枢神経機能異常の診断	381	294	61	15	11		93.2	6.8
68	実物大臓器立体モデルによる手術計画	46	16	30				100.0	
70	レーザー血管形成術	8	3	5				100.0	
71	筋内圧測定による筋コンパートメント症候群の診断	2	2					100.0	
73	固型腫瘍のDNA診断	208	10	195	2	1		98.6	1.4
74	進行性筋ジストロフィーのDNA診断	100	77	9	2			86.0	2.0
86	経皮的レーザー椎間板切除術	14	7	6				92.9	
88	活性化自己リンパ球移入療法	182	12	40	51	75	4	28.6	69.2
89	フローサイトメトリーのTwo-color分析法によるPNHの鑑別診断法	7		7				100.0	
90	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	5		3		1	1	60.0	20.0
93	スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	22	22					100.0	
98	羊水を用いた胎児血小板型の出生前診断	1		1				100.0	
101	焦点式高エネルギー超音波療法	6		1			5	16.7	
105	潰瘍性大腸炎に対する遠心分離法による白血球除去治療	10	5	1	2	2		60.0	40.0
107	Open MRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するYag Laserによる経皮的椎間板減圧術	147	59	42	20	26		68.7	31.3
109	脳死肝臓移植手術	2	1			1		50.0	50.0
110	肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	7	2	4	1			85.7	14.3
112	フローサイトメトリーによる先天性免疫不全症の診断	1	1					100.0	
118	筋緊張性ジストロフィー症のDNA診断	1		1				100.0	
120	内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	58	42	16				100.0	
122	家族性アミロイドーシスのDNA診断	6	6					100.0	
123	三次元形状解析による顔面の形態的診断	2	2					100.0	
125	抗癌剤感受性試験	106	6	37	21	9	48	40.6	28.3
126	子宮頸部前癌病変のHPV-DNA診断	58		58				100.0	
127	不整脈疾患における遺伝子診断	9	3		4	1	1	33.3	55.6
128	体幹部病巣に対する直線加速器による定位放射線治療	35	11	22	1			94.3	2.9
130	腹腔鏡下肝切除術	4	4					100.0	
131	画像支援ナビゲーション手術	19	18	1				100.0	
133	肝臓に対する高周波焼灼療法	65	50	10	1	4		92.3	7.7
134	エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	1		1				100.0	
135	成長障害のDNA診断	1	1					100.0	
137	心臓移植手術	2	2					100.0	
132	悪性腫瘍に対する粒子線治療	74	19	13	36	6		43.2	56.8
138	腹腔鏡下前立腺摘除術	150	143	1		1		96.0	0.7
139	生体部分肺移植術	2	2					100.0	
141	CT透視ガイド下生検	1	1					100.0	
144	悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	2					2		
19	インプラント義歯	309	195	30				72.8	
22	顎顔面補綴	16	13	1			1	87.5	
26	顎関節症の補綴学的治療	1	1					100.0	
76	歯周組織再生誘導法	111	52	46	9		1	88.3	8.1
81	接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	48	45	2				97.9	
83	光学印象採得による陶材歯冠修復法	9	6			1		66.7	11.1
87	X線透視下非親血的嚙石摘出術	10	10					100.0	
103	レーザー応用によるう蝕除去・スケーリングの無痛療法	1	1					100.0	
108	顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	2	2					100.0	

(※)有効性=(著効症例数+有効症例数)/年間実施件数

つまり、有効性=(1(CR)+2(PR))/年間実施件数

(※)無効性=(不変症例数+無効・進行症例数)/年間実施件数

つまり、無効性=(3(NC)+4(PD))/年間実施件数

高度先進医療実施状況(年次経過)

整理 番号	高度先進医療	平成15年 現在 医療機関	[調査年次] 実施件数										
			6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	累計
6	直流電流による骨電気治療法	1	3	0	1	1	3	0	1	1	2	1	13
16	顔面骨、頭蓋骨の観血的移動術	8	0	0	0	0	0	1	2	5	4	1	13
19	インプラント義歯	26	266	284	340	358	235	218	238	260	294	309	2802
22	顎顔面補綴	9	4	13	7	8	7	14	9	12	9	16	99
24	培養細胞による先天性代謝異常診断	8	0	1	3	1	7	9	5	10	5	2	43
26	顎関節症の補綴学的治療	3	163	152	172	105	79	23	23	9	10	1	737
31	重症肥満の外科治療法	1	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	4
35	完全埋込式頭蓋内圧計による頭蓋内圧測定	6	3	9	4	5	4	1	1	0	0	0	27
41	経皮的コルドトミー	1	0	0	0	0	2	0	0	2	3	0	7
45	溶血性貧血症の病因解析ならびに遺伝子解析診断法	1	3	1	4	3	0	1	2	1	0	0	15
53	経皮的埋め込み電極を用いた機能的電気刺激療法	4	10	11	17	10	7	3	2	4	14	6	84
59	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	1	0	0	0	0	0	0	1	3	1	1	6
60	人工中耳	3	1	2	1	3	0	1	1	0	0	0	9
61	神経磁気診断装置による中枢神経機能異常の診断	9	4	2	3	268	235	202	246	336	365	381	2042
68	実物大臓器立体モデルによる手術計画	14	41	40	42	60	73	48	52	48	37	46	487
70	レーザー血管形成術	5	3	1	3	0	0	2	0	1	3	8	21
71	筋内圧測定による筋コンパートメント症候群の診断	3	0	0	0	0	0	0	16	4	4	2	26
73	固形腫瘍のDNA診断	13	0	8	17	14	27	41	52	80	120	208	567
74	進行性筋ジストロフィーのDNA診断	4	7	15	27	18	41	41	89	60	79	100	477
76	歯周組織再生誘導法	13	0	23	54	79	52	49	104	83	126	111	681

(注) 承認医療機関数は H15. 5月31日現在のもの

整理 番号	高度先進医療	平成15年 現在 医療機関	[調査年次] 実施件数											
			6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	累計	
78	埋込型精密持続注入ポンプ(レボガス使用)による肝動注療法	1	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
81	接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	4	—	0	12	43	42	31	44	68	58	48	346	
82	胸腔鏡下肺表面レーザー凝固治療	5	—	0	1	12	11	7	2	0	0	0	33	
83	光学印象採得による陶材歯冠修復法	4	—	0	6	1	6	4	8	12	19	9	65	
84	性腺機能不全の早期診断法	1	—	0	3	1	2	1	2	0	1	0	10	
86	経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	3	—	—	9	32	63	44	33	25	0	14	220	
88	活性化自己リンパ球移入療法	7	—	—	—	9	46	54	134	108	141	182	674	
89	フローサイトメトリーのTwo-color分析法によるPNHの鑑別診断法	3	—	—	—	3	5	3	6	11	13	7	48	
90	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	1	—	—	—	4	15	9	9	6	8	7	58	
93	スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	2	—	—	—	0	15	27	29	19	17	22	129	
94	血小板糖蛋白異常症の病型及び病因診断	1	—	—	—	—	1	1	0	0	0	0	2	
98	羊水を用いた胎児血小板型の出生前診断	1	—	—	—	—	1	0	1	0	0	1	3	
100	腹腔内超音波プローブ及び腹腔鏡監視下のヒステロファイバースコープレーザー手術	1	—	—	—	—	4	0	0	0	0	0	4	
101	焦点式高エネルギー超音波療法	5	—	—	—	—	2	18	10	30	30	6	96	
103	レーザー応用によるう蝕除去・スクレーピングの無痛療法	2	—	—	—	—	9	13	8	3	2	1	36	
105	潰瘍性大腸炎に対する遠心分離法による白血球除去治療	10	—	—	—	—	2	5	31	28	13	10	89	
107	Open MRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するYag Laserによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法を用いた場合を含む)	1	—	—	—	—	50	135	190	132	124	147	778	

(注) 承認医療機関数は H15.5.31現在のもの

整理 番号	高度先進医療	平成15年 現在 医療機関	[調査年次] 実施件数										累計
			6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	
108	顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	3	—	—	—	—	0	0	0	0	2	2	4
109	脳死肝臓移植手術	5	—	—	—	—	0	2	5	5	6	2	20
110	肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	3	—	—	—	—	0	26	53	33	9	7	128
111	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	1	—	—	—	—	—	0	0	0	1	0	1
112	フローサイトメトリーによる先天性免疫不全症の診断	1	—	—	—	—	—	0	0	1	0	1	1
114	顎関節脱臼内視鏡下手術	1	—	—	—	—	—	1	1	0	0	0	2
116	内視鏡下経膀胱瘻経尿道的アプローチによる膀胱内手術	1	—	—	—	—	—	0	0	0	1	0	1
118	筋緊張性ジストロフィー症のDNA診断	1	—	—	—	—	—	0	1	2	4	1	8
119	SDI法による抗癌剤感受性試験	1	—	—	—	—	—	1	11	19	12	0	43
120	内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	6	—	—	—	—	—	2	49	33	32	58	174
121	栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	3	—	—	—	—	—	0	1	1	2	0	4
122	家族性アミロイドーシスのDNA診断	1	—	—	—	—	—	0	11	3	8	6	28
123	三次元形状解析による顔面の形態的診断	1	—	—	—	—	—	—	25	20	16	2	63
124	マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	1	—	—	—	—	—	—	10	5	0	0	15
125	抗癌剤感受性試験	6	—	—	—	—	—	—	8	36	101	106	246
126	子宮頸部前癌病変のHPV-DNA診断	1	—	—	—	—	—	—	0	68	77	58	203
127	不整脈疾患における遺伝子診断	2	—	—	—	—	—	—	0	5	4	9	18
128	体幹部病巣に対する直線加速器による定位放射線治療	4	—	—	—	—	—	—	0	38	54	35	127
130	腹腔鏡下肝切除術	3	—	—	—	—	—	—	0	6	4	4	14
131	画像支援ナビゲーション手術	2	—	—	—	—	—	—	—	0	20	19	39
132	悪性腫瘍に対する粒子線治療	1	—	—	—	—	—	—	—	0	29	74	103
133	肝癌に対する高周波焼灼療法	1	—	—	—	—	—	—	—	10	74	65	149

(注) 承認医療機関数は H15.5.31現在のもの

整理 番号	高度先進医療	平成15年 現在 医療機関	[調査年次] 実施件数										累計	
			6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年		
134	エキシマレーザーによる治療的角膜 切除術	1	—	—	—	—	—	—	—	—	0	8	1	9
135	成長障害のDNA診断	1	—	—	—	—	—	—	—	—	0	3	1	4
137	心臓移植手術	2	—	—	—	—	—	—	—	—	0	2	2	4
138	腹腔鏡下前立腺摘除術	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	25	150	175
139	生体部分肺移植術	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	2
140	耳鼻咽喉領域の機能障害を伴った顎 関節症に対する中耳伝音系を指標と した顎位決定法	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0
141	CT透視ガイド下生検	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
142	門脈圧亢進症に対する経頸静脈的肝 内門脈大循環短絡術	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0
143	乳房温存療法における鏡視下腋窩郭 清術	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0
144	悪性黒色種におけるセンチネルリン パ節の遺伝子診断	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	2

(注) 承認医療機関数は H15. 5.31現在のもの

高度先進医療を保険導入するに当たって
考慮すべき事項

1. 普 及 性
2. 有 効 性
3. 効 率 性
4. 安 全 性
5. 技 術 的 成 熟 度

高度先進医療の保険導入等に関する調査の基準

○ 総合判定

普及性・効率性・有効性・安全性・技術的成熟度等を総合的に勘案し、

- A. 保険導入が妥当。
- B 1. 承認手続きの簡素化の対象とするのが適當。
- B 2. 従来通り高度先進医療が適當。
- C. 高度先進医療から削除するのが適當。

○ 個別の評価項目

① 普及性

- A. 罹患率、有病率から勘案してかなり普及している。
- B. 罹患率、有病率から勘案してやや普及している。
- C. 罹患率、有病率から勘案して普及しているとはいえない。
- D. ほとんど普及していない。

② 効率性

既に保険導入されている医療技術に比較して、

- A. 大幅に効率的。
- B. やや効率的。
- C. 効率性は同程度。
- D. 効率性は劣る。

③ 有効性

- A. 従来 of 技術を用いるよりも大幅に有効。
- B. 従来 of 技術を用いるよりもやや有効。
- C. 従来 of 技術を用いるのと同程度、または劣る。

④ 安全性

- A. ほとんど問題なし。(ほとんど副作用、合併症なし)
- B. あまり問題なし。(軽い副作用、合併症あり)
- C. やや問題あり、または時に大きな問題となる。
(生命に危険のあるほどではないが、かなり重い副作用、合併症あり、
または生命にかかる副作用、合併症のあることあり)

⑤ 技術的成熟度

- A. 当該分野を専門とし、経験を積んだ医師であれば行える。
(誰でも行える)
- B. 当該分野を専門とし、数多く経験を積んだ医師であれば行える。
(少し訓練すれば誰でも行える)
- C. 当該分野を専門とし、かなりの経験を積んだ医師を中心とした診療体制をとっていないと行えない。
(かなり訓練しないと行えない、または非常に訓練しないと行えない)